

## 令和5年度 算数科授業改善プラン

令和5年度全国学力・学習状況調査〔算数〕の結果から、本校の現状と授業改善の視点を分析する。

### 集計結果

対象児童数		国上市立国立第三小学校	東京都（公立）	全国（公立）
		96	92,209	964,350

  

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴校	東京都（公立）	全国（公立）
全体		16	76	67	62.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	82.1	71.0	67.3
	B 図形	4	65.4	54.8	48.2
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	80.7	75.8	70.9
	D データの活用	3	78.1	67.3	65.5
評価の観点	知識・技能	9	80.1	71.5	67.2
	思考・判断・表現	7	71.9	61.2	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	73.1	63.2	57.7
	短答式	7	86.3	78.0	74.7
	記述式	4	63.5	52.4	47.3

### 1 本校の現状

本校の成績は、領域別、評価観点別、問題形式別、いずれも一部を除いて東京都や全国に比べて10ポイント以上高い数値となっている。記述式の正答率に関しては昨年度の78%と比較して大きく下がっているが、東京都・全国平均も同様に大きく下がっているため、問題の難易度が上がったためと考えられる。図形領域の正答率にも同様のことが言えるが、特に正答率が下がっており、図形分野に関しては基礎・基本を再度徹底して習熟させる必要がある。問題を自分事にして粘り強く取り組むことができ、自分なりに説明する力は身に付いてきているが、それらを生かすためにも基礎・基本的事項をしっかり身に付けさせていく必要がある。

一方、ポイントが比較的低かった問題を2つ挙げる。

◆2(3)「正三角形の意味や性質について理解しているかどうか」を問う問題

(正答率:本校 51.0%、東京 35.2%、全国 24.9%)

◆2(4)「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかを見る」問題

(正答率:本校 35.4%、東京 29.5%、全国 20.8%)

2(3)と2(4)に共通するのは、問題の意図や文脈を正しく読み取る力である。2(3)では、テープを折ってから切って開くので、正三角形にするには半分の30度で切る必要があるが、「正三角形だから60度」という思い込みによる誤答が多かったと考えられる。2(4)では、見た目では直感的には①の三角形の面積の方が大きく見えるが、「底辺と高さが等しい三角形は面積も等しい」ことを問う問題である。何を問われているのかを正しく読み取れば、もっと正答率は高くなったと考えられる。

### 2 授業改善の視点

以上のような現状を踏まえて、授業改善の視点を2点挙げる。

◎「問題設定」の際に、その意図や文脈を理解させることを大切にする。

授業で問題を設定する場面では、問題を日常生活や実際の状況に関連付けたり、図やグラフを活用して問題の文脈を明確にすることで、児童が問題の意図を理解しやすくなる。算数の問題が、自分の想起できる生活、体験に結びつく経験を積むことで、糸や文脈を理解する力がついていくと考える。

◎基礎・基本的な内容の習熟

問題の意図や文脈を読み取る力以前に、2(4)のように基礎的な学習内容がしっかり身に付いていれば、設問の意図にも気づきやすくと考えられる。単元の終わりには、今回学習した重要な内容を確認する時間を、今まで以上に意識して取り組むことが大切であると考えられる。